

# ふじなわ 喜和

## 2022 秋号 よしかず No.38

発行：ふじなわ喜和  
鳥取市湖山町北4丁目812  
tel&fax 0857-28-2795

### とっとり情熱がわら版

●県議会だより●

4年間の総集編

2019・2020・2021・2022

平成から令和になった2019年に第86代の鳥取県議会議員長に就任。皆様と共に新型コロナウイルスと闘う激動の4年間でした。



2019年4月の県議会選挙で、皆様のご支援のおかげをもちまして五回目の当選をさせていただきました。また、その後5月10日に開催されました臨時県議会で、第86代の鳥取県議会議長に選任されました。これもひとえに皆様方のおかげであり、心からお礼申し上げます。

### 正副議長に 藤縄、福田氏

鳥取県議  
会は10日の  
臨時議会で  
正副議長選  
を行い、議  
長に藤縄  
自民党の藤  
縄喜和氏  
(67)鳥取市、  
副議長に同  
会派の福田  
俊史氏(49)八頭郡、  
同左を選んだ。藤  
縄氏は「知事との緊張関係を  
保ち政策立案や監視機能を  
強化したい。議会改革にも  
全力で取り組み活発で開か  
れた議会を目指す」と語っ  
た。



正副議長とも合流した県議会自民党から選出。西氏は改選前、旧会派自民党に所属しており、4年の任期の後半2年は旧県議会自民党から選出される見通し。議長選の投票結果は、藤縄氏26票▽興治英夫氏(会派民主)9票。藤縄氏は自民党の20人と公明党3人、無所属のうち3人の票を固めた。

2019.6.3 舞立参議院議員に参議院議員要望活動



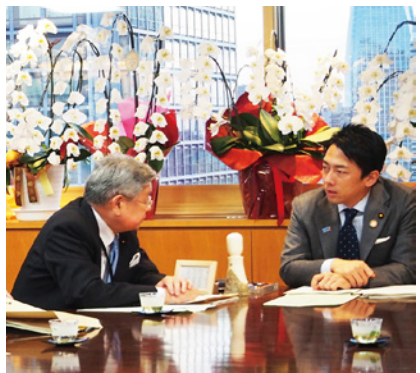
2019.10.22 即位の礼に平井知事と出席



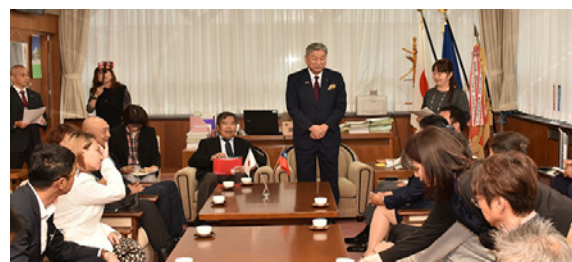
2019.5.18「みどりの愛護のつどい」鳥取市布勢運動公園



2020.7.16 鳥取県地方分権推進連盟要望活動(高市総務大臣)



2019.11.5 全国議長会要望活動 小泉進次郎環境大臣



2019.10.21 台中市議会議長表敬



2019.5.11 第64回鳥取県植樹祭(とっとり出会いの森)



2019.5.30 高速道路交通警察隊鳥取分駐隊庁舎落成式典(鳥取市松原)



2019.5.26 鳥取県水防訓練(鳥取市千代川)



2019.6.12 ブラジル鳥取県人会本橋名誉会長議長表敬



2020.2.4 岩美道路東浜トンネル貫通式

2021.10.31 日本海新聞

2020.11.21 日本海新聞

## 憩いの場で意識向上願う

### 天皇陛下ご下賜金で記念植樹(鳥取市)



緑豊かな地域を守ろうと、記念植樹する関係者

10月の「とっとり森林月間」に合わせて、天皇陛下のご下賜金による記念植樹が9年に一度行われている。県民の憩いの場に木を植えて、緑化意識の向上を願う行事だ。

天皇陛下から毎年贈られるご下賜金は、国土緑化推進機構が全国5プロックに振り分ける。このうち中国ブロックは、9県が持ち回りで植樹している。

今年10月12日に、鳥取市のとっとり出会いの森で記念植樹を行った。植えた苗木の種類は、ヤエヒシダレ一本。バラ科サクラ属のサクラで、先が長く垂れ、紅色の小さな花を咲かせる。

この日は同会理事長で県議会の藤縄喜和議長と、県森林組合連合会の前田幸己会長、県農林水産部森林・林業振興局長の森本智史局長の副理事長2人が、施設内の出合いの広場に植えた苗木の根元に土をかぶせた。藤縄理事長は「この活動を県民に知ってもらいたい。昨年は『みどりの愛護』のつどいも開催された。地域緑化運動がさらに推進できるように、大切に育てたい」と話した。

## 武良、三上選手に特別優秀選手賞

### 県水泳連盟 東京五輪の報告会

鳥取県水泳連盟は30日、東京五輪の報告会を米子市内で開き、競泳男子平泳ぎの武良竜也選手(ミキハウ)と女子板飛び込みの三上(平塚千遠)とに特別優秀選手賞を贈った。



特別優秀選手賞を贈られた三上選手(中央)と武良選手(右) = 30日、米子市明治町の米子ワシントンホテルプラザ

報告会には三上選手を指導した安田千代樹コーチと武良選手を指導した藤森善弘コーチをはじめ、平井伸治知事や伊木隆司米子市長、同連盟関係者ら約50人が出席。板飛び込み準決勝16位の三上選手は「応援してくださった方に恩返しできていない。五輪でメダルを取って帰ってこられるよう頑張りたい」と次を見据えた。

男子平泳ぎ200メートル7位入賞、男子400メートル11位入賞の武良選手は「コロナ禍で支援打ち切りとなり引退も考えたが、水泳をやめなくて良かった。いろんな方に後押ししてもらい感謝している」と笑顔で話した。

同連盟の藤縄喜和名誉会長は「二人の活躍に敬意を表する。パリのメダルの可能性を証明した大会だった」とたたえ、表彰状を手渡した。安田コーチには「特別功労賞」が贈られた。(平塚千遠)

## 県政にスポーツマンシップを!!



2020.3.22 弓ヶ浜サイクリングコース 開通式 32Km 走る(境港市)



2021.8.1 東京2020 競泳武良選手を応援(米子市)



2020.9月定例県議会 県議会議場に感染症対策の亚克力仕切板設置



2020.2.21 2月定例議会開会日 県警察音楽隊が議場で初演奏



# 5類への引き下げ否定

平井知事「公費負担なくなる」  
 新型コロナウイルスの感染症上の位置付けを、疫学調査などが必要な「2類相当」からインフルエンザなどと同等の「5類」に引き下げるべきではないかとの議論について、鳥取県の平井知事は1日の本会議で、「5類になれば治療費の公費負担がなくなる。病院に行かない人が増え、感染拡大が止められない」と述べ、現段階での引き下げの必要性を否定した。

平井知事は、新型コロナウイルスの致死率を考えるとインフルエンザと同様に扱うのは難しいと指摘。「社会経済

# We Love 鳥取で延長

鳥取県は1日、新型コロナウイルス対策で宿泊料割引などが受けられる「We Love 山陰キャンペーン」について、県民の県内施設利用を対象にした適用期間を3月末まで延長した。山陰両県が両県施設で利用できるキャンペーンの再開は、感染状況を見ながら両県で協議する。

県議会本会議で藤縄喜和議員（県議会自民党）の代表質問に答えた平井知事は、宿泊施設関係者からも好評だとして「オミクロン株が長期化しそうな状況をにらんで延長したい」と意図を明かした。

キャンペーンは対象宿泊施設で5千円を上限に料金の半額の割引が受けられ



2022年2月 定例県議会代表質問

2022.3.1

- 1 平井県政 4 期目の最終年度に向けて
- 2 新型コロナウイルス感染症の克服に向けて
- 3 ポストコロナを見据えた持続可能な地域社会の実現に向けて
  - ① 人口減少時代における持続可能な地域づくりについて
  - ② ポストコロナを見据えた観光・交流の推進について
  - ③ 本県産業の持続的な発展に向けて
  - ④ 安心・安全な・県民生活の実現に向けて
  - ⑤ たくましく自立する子どもの育成に向けて
  - ⑥ 高齢化社会における更なる交通事故防止対策について



自席で追及質問をする

への影響や、保健所や医療機関の機能維持をどうするかが肝心」と強調し、感染症上の位置付けの議論は時期尚早との見方を示した。

県によると、流行第5波までの感染者の死亡は5人だったが、第6波では2月17、24日に4人の死亡が発表されている。（浜田匡史）

島根県は感染状況の悪化により、1月20日から新規予約を停止、まん延防止等重点措置の適用に伴い2月1日からは既存予約分を含め停止した。重点措置の解除に合わせ、2月21日から県民の県内利用分を再開した。（藤井俊行）

# ロシア関連事業凍結

## 鳥取県 情勢緊迫で執行困難

ロシアのウクライナ侵攻響を与えた形だ。同日の本会議で平井知事は「現実的な選択」と述べた。

一方、「事態がどう動くかわからないので予算枠は確保しておきたい」とし、問題解決後の交流再開に理を求めた。

同予算案には、沿海地方からの柔道交流団や青少年交流団の受け入れといった文化交流事業、ロシアでの新規ビジネス創出、環日本海航路の再就航に向けた需要の掘り起こしを行うビジネス拠点化構築事業などが計上されている。

鳥取県とロシア沿海地方は1991年に友好交流に関する覚書を締結。2010年には友好交流協定を結んだ。昨年11月には平井知事がコジエミャコ・オレグ知事とオンラインで会談し、境港市とウラジオストクを結ぶ定期航路の再開に向けて取り組むことで一致したばかりだった。（浜田匡史）



2020.2.9 台湾台中市ランタンフェスティバル点灯式



2021.12.16 兵庫県新温泉町 山陰海岸ジオパーク館 現地調査 山陰海岸ジオパーク 玄武岩の玄武



2022.8.21 羽合海岸をバックに

# 知事の駄じやれ 答弁に県議苦言

23日の鳥取県議会運営委員会で、平井知事の駄じやれに議員が苦言を呈した。16日の本会議での答弁で新型コロナウイルス感染者数を大阪の食品製造会社になぞらえ「鳥根県の累計551人は、どこかで聞いた数字。大阪の豚まん屋と同じ」などと表現したことに対し、藤縄喜和議員（県議会自民党）が「感染者は死や詐病中の恐怖がある。いかになものか」と自戒を求めた。

平井知事は16日の答弁で、鳥取、島根各県の累計感染者数がそれぞれ466人と551人で全国でも際だって少ないとした上で、鳥取県の数字については「6はシックスと読め、よくよく、仕上がっている」と述べた。

平井知事は本紙取材に「鳥取、島根両県が仲良く数を抑えていて県民にお礼を申し上げた趣旨。必要であれば撤回した議事録の抜いもあるかもしれない。議会の判断を仰ぎたい」と話した。（岡宏由紀）

# 感染防止に役立てて

県日台親善協会 4 機関にマスク贈る



医療現場で役立ててもらおうとマスクを寄贈した藤縄会長（右）=26日、鳥取市江津の県立中央病院

鳥取県日台親善協会は26日、新型コロナウイルスの感染拡大防止に役立ててもらおうと、サージカルマスク千枚を県立中央病院（鳥取市江津）に寄贈した。同協会は計5千枚を4機関に贈る予定だ。

マスクは、台湾の総領事館に相当する台北駐大阪経済文化弁事処の李世丙処長から同協会に贈られたもの。藤縄喜和会長は「感染リスクが高い現場で働いている方の役に立ててもらえれば」と述べた。

同協会は、この日、県立厚生病院（倉吉市東昭和町）にも贈った。28日は鳥取大医学部付属病院（米子市西町）、県老人保健施設協会（同市上後藤3丁目）を訪問する。（後藤昇一郎）

# 山陰海岸ジオ推進へ要望書

3 府県議連、平井知事に鳥取、兵庫、京都の3府県議会の有志議員でつくる山陰海岸ジオパーク推進3府県議会議員の会（会長・藤縄喜和鳥取県議）は3日までに、ジオパーク活動の推進に関する要望書を鳥取県の平井知事に提出した。2022年度の世界ジオパークネットワーク再認定審査を前に、エリア内外を結ぶ交通アクセスの充実に取り組みよう求めた。

要望書では、日本ジオパークネットワークと連携した国内外での認知度向上▽集客の見込める関西地域との交通利便性向上▽体験型イベントの開発とPR▽国連の持続可能な開発目標（SDGs）と連動した行動プログラムの作成ーなどに3府県が足並みをそろえて取り組むよう要望した。



平井知事（左）に要望書を手渡す藤縄会長（左から2人目）＝鳥取県庁



2020.3.4 日台親善協会総会（大阪弁事処長李世丙氏を招いて）

# 台湾とオンラインでつないで行われた決起集会



# 鳥取一台湾定期便化へ決起

関係者がオンラインで集会

鳥取県と台湾の相互交流の促進と両地域を結ぶ航空路線の定期便化を目指す決起集会が、鳥取と台湾をオンラインでつないで開かれた。決起集会に合わせて結成された交流団体「鳥取・台湾ファンクラブ」と台湾の旅行会社などをつくる「鳥取応援団」が企画。両団体の代表らが相互交流の重要性を確認した。

鳥取と台湾の間では2019年9、12月にチャーター便が計37往復運行され、4千人以上が利用。搭乗率は9割近くに上った。鳥取砂丘コナン空港（鳥取市）には、同クラブの藤縄喜和代表ら6人が参加。藤縄代表は「定期便を就航させるため『鳥取応援団』の支援をお願いしたい」と呼び掛けた。

同クラブでは今後、会員向けに会員制交流サイト（SNS）を使って鳥取や台湾に関する情報を発信する。台湾からオンラインで参加した鳥取応援団の林怡君事務局長は「現時点で13社が団体に加わっている。イベントやSNSで台湾での鳥取の知名度を上げてファンを増やしたい」と、定期便就航に意欲を示した。（中村美生子）